

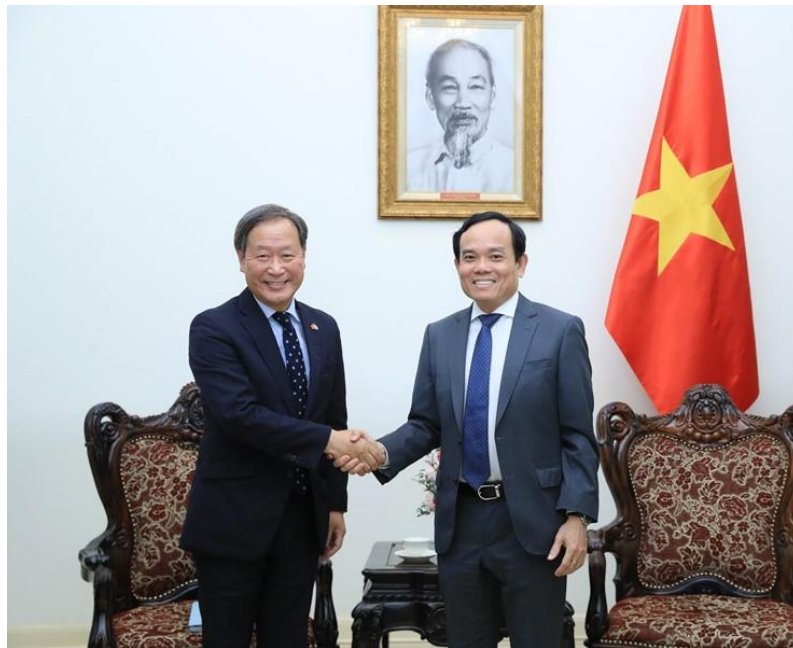
山田副理事長がベトナム訪問：クアン副首相はじめ、閣僚との会談、 ティエンサ港、ラックフェン港を視察

2023年8月5日
国際協力機構（JICA）ベトナム事務所

山田順一 JICA 副理事長は、7月31日から8月4日にかけてベトナム社会主義共和国を訪れ、ハノイでクアン副首相、計画投資省ズン大臣、公安省ラム大臣、財政省フォック大臣、ハイフォンでチャウ党書記と会談するとともに、ダナンでティエンサ港、ハイフォンでラックフェン港を視察しました。

1. クアン副首相との会談

両者とも2023年5月のJICA本部面談以来の再会を祝すとともに、クアン副首相からは、ベトナムの社会経済の発展に対する日本のODAによる協力について感謝の意が述べられ、これまで以上に日越の連携が促進され、多様な分野におけるJICAとの協力推進につき要望がありました。また、実施中案件の課題解決に向け、日越が連携して対応する意向が表明されました。山田副理事長からは、1年ぶりかつ日越外交関係50周年にベトナム再訪出来た事への喜びが示され、7月に行われた3件（ビンズオン省公共交通インフラ改善事業、ラムドン省農業開発インフラ改善事業（フェーズ1）、新型コロナウイルス感染症対応支援借款）のL/A調印への感謝に加え、「新しい時代のODA」として新たなスキームによる協力を検討したいと応じました。会談の最後には、今後も両者の定期的な面談を通じた協議の継続を約束し、固い握手で再会を期しました。



会談後に握手をする山田副理事長とクアン副首相

2. ズン計画投資大臣との会談

山田副理事長より、2022年9月以来の再会を喜ぶと共に、3件のL/A調印への協力につき謝意が示され、引続き計画投資省とJICAが連携し、ベトナムの発展に協力していきたい旨、発言がありました。ズン計画投資大臣からは、日本によるベトナムの経済・社会発展への貢献につき謝意が示され、引き続き日本と連携してベトナムの発展に資するプロジェクトを推進していく旨、応答がありました。今後も更なるODAの活性化に向け協力していく旨、両者で合意し、日越外交関係樹立50周年となる本年を節目に、両国関係が一層強化する事を確認し、会談を終えました。

3. ラム公安大臣との会談

冒頭、ラム公安大臣より、2023年4月のJICA本部面談以来の再会を喜ぶとともに、水上警察や消防、サイバーセキュリティに関するJICA協力を謝意が示されました。山田副理事長からは、準備中を含め協力案件の進展について報告がされるとともに、日越双方の手続きを加速化し、連携を進めることの重要性が示され、ラム大臣も同意しました。近いうちに次回面談を実現させ、双方で事業の進捗を確認することで合意し、面談が終了しました。

4. フォック財政大臣との会談

両者とも約1年ぶりの再会及び先の7月に行われた3件の円借款のL/A調印を喜び、フォック大臣からは道路や鉄道などのインフラ整備に加え、気候変動など持続可能な開発のための協力を期待が示されました。山田副理事長からは、クアン副首相とも協議した「新しい時代のODA」について紹介すると共に、実施中案件の促進に向けた越政府内手続きの加速化につき依頼し、フォック大臣から対応を約束する旨、応答がありました。



会談後に握手をする山田副理事長とフォック大臣

5. チャウ ハイフォン市党書記との会談

冒頭、チャウ党書記よりラックフェン港や水分野をはじめとした JICA、日本の協力に対し感謝が述べられ、引続き民間や自治体からの協力を含め、幅広い分野における協力への期待が示されました。山田副理事長は、ベトナムは JICA にとって重要国であるとともに、ハイフォン市は北部経済拠点としてベトナムの経済成長をけん引しており、同市の重要性を認識している為、引続き協力を継続したいと応じました。

6. ティエンサ港の視察

8月3日、山田副理事長はダナンのティエンサ港を視察しました。ティエンサ港はベトナム中部最大の港であり、JICA によるコンテナターミナルの新設、アクセス道路の改良により、荷役量が増加しました。当日はダナンポート社の案内により、港の設備や稼働状況を確認し、コンテナ取扱量や貨物量が大幅に増えた事への謝意が示されました。山田副理事長は、ダナンは東西経済回廊の玄関口にあたり、ASEAN の連結性強化に資するティエンサ港の重要性を強調し、その発展に JICA が貢献出来た事への喜びを表しました。



ティエンサ港での集合写真

7. ラックフェン港の視察

8月3日、山田副理事長はハイフォンのラックフェン港を視察しました。ラックフェン港はベトナム北部の工業地帯の発展に伴い増大する物流需要に対応する為、初めてのJICA円借款による官民連携案件の協力により新設されました。当日はハイフォンインターナショナルコンテナターミナル社の案内により、大型コンテナ船の受入れや貨物取扱量につき説明を受



け、コンテナヤードや防波堤の状況を確認しました。山田副理事長からは、北部の物流拠点としてラックフェン港が果たす役割は大きく、日本企業も運営に携わっている同港が、ベトナムの経済発展及び国際競争力強化に寄与する事への期待が示されました。

JICA は、本年 2023 年の日越外交関係樹立 50 周年、さらにその先の両国の末永い友好関係強化に寄与すべく、引き続きベトナムの発展に協力していきます。

お問い合わせ： JICA ベトナム事務所 広報班 関 里緒菜
Tel: (+84-24) 3831 5005 (内線 137) E-mail: Seki-Riona@jica.go.jp